

ロイヤルエンフィールド 2025年モデル新型「HUNTER 350」 日本での価格を発表、8月1日より受注を開始 新機能に加え、日本の街並みをイメージした新色も追加



- ストリートからインスピレーションを受けた3つのカラー&グラフィック、SHOWA 製新型リアサスペンション、クラッチレバー荷重軽減や急激なエンジンプレーキによるバックトルクを低減可能とした FCC 製アシスト&スリッパークラッチを採用
- 2025 年型 HUNTER 350 は、2025 年 8 月 1 日より受注を開始。メーカー希望小売価格は ¥599,500(税込)からとなります

ミッドサイズ(250cc~750cc)モーターサイクル・セグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、2025年モデルの新型「HUNTER 350(ハンター・サンゴーマル)」を発表。2025年8月1日より、全国のロイヤルエンフィールド正規販売店において受注を開始します。

世界中のストリートカルチャーからインスピレーションを得て開発した新型「HUNTER 350」は、新しい3つのカラー&グラフィックを採用するとともに、走りのパフォーマンスと快適性を高める新アイテムや新機能を追加しました。

新型「HUNTER 350」2025年モデルの概要

- イメージしたのは、ブラジル／リオの白い砂浜、英国／ロンドンの赤レンガの路地、日本／東京の黒いアスファルト。新型「HUNTER 350」には、Rio White（リオ・ホワイト）／London Red（ロンドン・レッド）／Tokyo Black（トウキョウ・ブラック）といった世界中の都市をイメージした新色を加えました。
- 最低地上高を高め、シートの快適性を向上。新しいSHOWA製サスペンションを採用するとともに、ライディングポジションも改良。グリップとシート、そしてステップの3点で構成するライディングポジションを人間工学に基づいて変更することで、ライディング時の快適性を高めました。
- 「HUNTER 350」は、ロイヤルエンフィールドの350ccシリーズで初めて、アシスト&スリッパークラッチを採用しました。このシステムは日本発の二輪車用クラッチのトップブランド／F.C.C製。圧倒的に軽いクラッチレバー操作が実現するとともに、急激なエンジンブレーキによるバックトルクを低減。減速時の車体安定性を高めました。
- LEDヘッドライト、スマートフォンアプリと連携して目的地までの方向と距離を表示する簡易型ナビゲーションシステム／Tripper(トリッパー)、USBタイプCポートを標準装備



コンパクトな車体とネオクラシックな車体デザイン。それに先進的な技術と思想によって開発し、力強く扱いやすく、高い信頼性も実現した新型「HUNTER 350」は、排気量349ccの空冷単気筒OHCエンジン／Jシリーズエンジンを搭載。街乗りやツーリングを楽しむライダーはもちろん、スポーツマインドのベテランライダーまで、幅広い嗜好とキャリアのライダーにフィットするモデルです。初代「HUNTER 350」は2022年の発売以来、すでに50万人を越えるライダーたちに支持されている、ロイヤルエンフィールドのモデルのなかでもっとも急成長を遂げたモデルです。

ロイヤルエンフィールド アジア太平洋 地域事業責任者である Anuj Dua(アヌージ・ドゥア)は次のように述べています。

「2025 年モデルの HUNTER 350 は、ロイヤルエンフィールドのラインナップにおいても個性的です。HUNTER 350 が元来持つ、若々しいデザインと軽快な乗り心地は、初めてバイクに乗る人や都市生活者から絶大な支持を得ています。私たちは 2025 年モデルで、所有する喜びを高め、ライディングするたびに得られるエキサイトメントを高めるために各部にアップグレードを加えました。それによって街中から郊外まで、あらゆるシチュエーションで、HUNTER らしさを高めました」

2025 年モデルの新型「HUNTER 350(ハンター・サンゴーマル)」は、2025 年 8 月 1 日より、全国のロイヤルエンフィールド正規販売店において受注を開始します。

バリエーション	メーカー希望小売価格
	HUNTER 350 Single tone Rio White (リオ・ホワイト)
	HUNTER 350 Single tone Dapper Grey (ダッパー・グレイ)
	HUNTER 350 Dual tone Tokyo Black (トウキョウ・ブラック)
	HUNTER 350 Dual tone London Red (ロンドン・レッド)
	HUNTER 350 Dual tone Rebel Blue (レベル・ブルー)

¥599,500(税込)

¥609,400(税込)

<ロイヤルエンフィールド社について>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling/ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650パラレルツインモーターサイクルの「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコンックな「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。また世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソーブとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalenfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalenfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalenfield.co.jp>